

家族で読書、地域で読書 「うちどく（家読）」でひろがるコミュニケーション

うちどく

授業が始まる前の時間を利用して学校で本を読む習慣「朝の読書」。1988年の開始から22年、今では小・中・高をあわせると26,700校を超え、約970万人の児童・生徒たちの読書習慣になりました。子どもたちが本を読む環境ときっかけをつくることはもちろん、導入した学校からは、「子どもたちに落ち着きが出てきた」「不登校やいじめがなくなった」といった報告もたくさん届いています。また、学校で行う「朝の読書」に対して、家で行う読書「うちどく（家読）」（以下、「うちどく」）に積極的に取り組む家庭や学校も増えました。親子や兄弟で同じ本を読むことで、そこで生まれる家族の会話には、相手の考え方や、普段は見えてこない心が見えてくると言います。さらに、地域では、そうした成果を広げていこうという動きも活発になってきました。全国で最初に「うちどく」に取り組んだ茨城県久慈郡大子町で、その活動をうかがってみました。

町をあげてとりくむ
赤ちゃんから大人まで読書に親しめる環境づくり



太子町 綿引久男町長

境づくりです。1歳からのブックスタートや、保育所・保育園・幼稚園では読み聞かせを徹底し、今年竣工した文化福祉会館には読書室も設置。そこは、お母さんたちも静かに本が読める環境になっています。また、小中学校では「うちどく」推進校を指定。今年の推進校である依上小学校では「よみかみ家読（うちどく）リレー」と題したユニークな試みを行っています。これは、本が2冊入っている「うちどく専用のバッグ」を順番に廻すという楽しいアイデアです。2冊の本は物語とノンフィクションを組み合わせるなど工夫しています。袋には本の他に、ひとこと感想シートなども入っています。このシートで他の家族の様子がわかると評判です。さらに、綿引町長は「大子町は『若者の住むまちづくり』をキーワードにしています。その大きな柱が「うちどく」です。先日、町内の若者が有志で読書をテーマにしたワークショップを行いました。が、そうした活動が増えてくることを期待しています」。今後さらに「うちどく」が、住民の活力を生み、づくり、街づくりにつながる活動になって欲しいと熱く語っていただきました。



「読書のまち」宣言から3年
人づくり、街づくりに「うちどく」を活かす

どこでも本が読める、
日本で唯一の「ブックツーリズム」の町にしたい

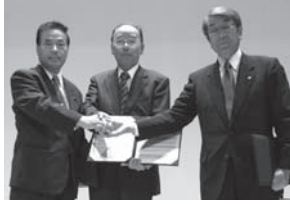


前があらわすように、考えているだけではダメ、ひとつ考えたらひとつ行動を起こそうということで、この夏は造形アーティストの金井ひろみさんによるワークショップを開催したそうでは。『大子町には』『読書』という大きなテーマがあります。まずはこの読書で町民がコミュニケーションする場をつくってみようと考えたのです。そう語るのは、このプロジェクトのリーダーをつとめる大森さん。この発想は見事にあたり、参加した親子は本のストーリーから物づくりを楽しむ貴重な体験をしたそうです。さらにお年寄りにも読み聞かせをしてもらい、世代を超えた交流のきっかけをつくること。高齢化が進む大子町を、みんなが住みやすい環境にするために、読み聞かせを生活したいと彼らは考えています。また、『読書』や「うちどく」の町だからこそ、どこでも本が読める街づくりも重要だと言います。周辺に観光地が多く自然豊かな大子町は読書にも最適な町です。「大子町に本を読みに行く」そういう人が集まる日本では唯一の「ブックツーリズム」の町になればと声を揃えます。始まったばかりのプロジェクトですが、本をコミュニケーションツールとする「うちどく」は、住む人から観光客まで彼らの活動を広げ、町も人の心も豊かにしそうです。

今年の2月から活動を始めたという「一考一步プロジェクト」。年齢も性別も職業も、さらに国籍も異なる14人が定期的に集まっては、ひとつのことを考えていると言います。それは、大子町らしい暮らしを活かして、次の世代に残せる街づくりをしたいということ。プロジェクトの名づけたらみさつ行動を起こさなければならぬというワークから大きなテーマがあります。つくってみようと考えたのとめる大森さん。この発想は、街づくりを楽しむ貴重な体験を行い、世代を超えた交流のきっかけづくりをする環境のために、「読書」や「うちどく」の町だと言います。周辺に観光地が多く、本を読みに行く「そういう人」を誘い手を揃えます。始まったイベントと「うちどく」は、大子町に豊かにしてうです。

全国の「うちどくの街」が集う、
「家読サミット in 太子」開催

佐賀県伊万里市で行われた第1回「うちどくサミット」に引き続き、第2回となる今年は10月16日、大子町にて開催されました。ノンフィクション作家の柳田里男さんの基調講演に続き、「うちどく」を積極的に推進する、佐賀県伊万里市の塚部芳和市長、青森県松柳町の館岡一郎町長、そして大子町の綿引久男町長によるシンポジウムも行われました。「うちどくにより豊かなまちづくり」と題し、各首長からの成果発表や熱い議論が交わりました。最後に行われたのが「うちどくサミット共同宣言」です。これは、今回参加した自治体がさらに連携を密にし、交流を深めていくことで「うちどく」が全国に広がっていくよう一層努力することを決意するもので、今年は以下の宣言になりました。

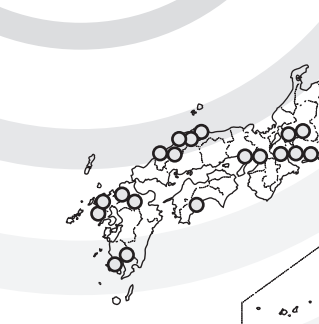


- ①子どもが本を読み、心の中に想像の翼を広げ、知的エネルギーを蓄え、未来へ向かって羽ばたくように努めます。②家族が本に親しみ、語り合い、コミュニケーションの輪を広げ、親子の絆が深まるように努めます。③自治体が読書環境を整え、本に触れる機会を増やすなど、「うちどく」を推進し、住民が本に親しむ心豊かな街づくりに努めます。

～ 全国にひろがるうちどくの輪 ～

「うちどく」を推進する自治体が
どんどん増えています！

※国民読書年記念「うちどく（家読）
全国市町村アンケート調査」（トーハン）より



「うちどく（家読）」全国市町村アンケートによると、回答があった437市町村のうち、家庭での読書を推進しているのは約半数の203市町村。「うちどく」という名称を使用しているのは21道府県35市町村。北海道から九州まで独自の取り組みで全国的に広がっていることが確認されています。

取材 / 村上千砂 撮影 / 馬場道浩

●●●「うちどく(家読)」・「朝の読書」を応援します●●●
■親子で(祖父母と)読みたい■

「うちどく (家読)」+「辞書引き学習」が家族のコミュニケーションを深めます!



子どもの「自ら考え、答えを導く力」「読解力」を身につける学習法「辞引き学習」を「うちどく」に取り入れてはいかがでしょうか。ゲーム感覚で辞書を引き、家族で言葉の意味や使い方を確認します。調べた言葉には付せんを付け、辞書が膨らんでいくことで子どもたちは充実感や達成感を味わえます。家族のコミュニケーションが深まり、言葉の数が増えれば、楽しみながらよりレベルの高い本にチャレンジできるようになります。

「うちどく (家読)」にぴったりの本をプレゼント!

家庭での読書の習慣や本にまつわる家族のエピソードなど、「わが家のうちどく」を募集します。抽選で10名様に、高木敏子著「ラストメッセージ～ガラスのうさぎとともに生きて」(メディアパル)をプレゼントします。

はがきにコメントと住所、氏名、年齢、職業を書いて、〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハン広報室「うちどく」係あてにお送り下さい。平成22年11月30日消印有効。

※当選は賞品の発送をもって代えさせていただきます。なお、ご記入いただいた個人情報は、賞品の発送及び今後の企画や運動に個人を特定しない形で活用させていただきます。

「うちどく（家読）」の約束

- ① 家族で同じ本を読もう!
- ② 読んだ本で話そう!
- ③ 感想ノートをつくろう!
- ④ 自分のペースで読もう!
- ⑤ 家庭文庫をつくろう!



家族で読んだ本の書名や感想が記録できる「うちどくノート」やおすすめの本を掲載した「うちどくブックガイドVol.7」を、以下のホームページから無料でダウンロードできます。

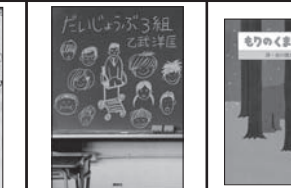
http://www.e-hon.ne.jpまたはうちどく
で検索

うちどくホームページにアクセス!

家庭での読書の習慣や本にまつわる家族のエピソードなど、「わが家のうちどく」を募集します。抽選で10名様に、高木敏子著「ラストメッセージ～ガラスのうさぎとともに生きて」(メディアパル)をプレゼントします。

はがきにコメントと住所、氏名、年齢、職業を書いて、〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハン広報室「うちどく」係あてにお送り下さい。平成22年11月30日消印有効。

※当選は賞品の発送をもって代えさせていただきます。なお、ご記入いただいた個人情報は、賞品の発送及び今後の企画や運動に個人を特定しない形で活用させていただきます。

 子供が喜ぶ「論語」 著 瀬戸謙介 四六判 206頁 1470円 978-4-88474-885-2 致知出版社	 心に響く小さな5つの物語 著 藤尾秀昭 文/片岡鶴太郎 四六判 77頁 1000円 978-4-09-293011-7 小学館	 日本の歴史 A5判 304頁 1890円 978-4-09-293011-7 主婦の友社	 つばい 198mm×210mm 32頁 1365円 978-4-07-263171-3 主婦の友社	 ちいさなあなたへ 198mm×210mm 40頁 1050円 978-4-07-255993-2 主婦の友社	 母—オモニ— 著 姜尚中 四六判 304頁 1260円 978-4-08-781444-6 集英社	 イグナートのおうけん 2作/小松田大全 絵 A5判 98頁 1260円 978-4-08-780574-1 集英社	 だいたいじゅうぶ組 著 乙武洋匡 四六判 280頁 1470円 978-4-06-216299-9 講談社	 もりのくまとデディベア 谷川俊太郎詩 和田誠絵 A4変型判 32頁 1260円 978-4-323-07175-6 金の星社	 へんしんマンザイ あきやまだし作 絵 A4変型判 32頁 1260円 978-4-323-03367-9 金の星社	池上彰の学べるニュース② 池上彰著 A5判 216頁 1100円 978-4-7593-1145-7 海電社	池上彰の学べるニュース① 池上彰著 A5判 208頁 1100円 978-4-7593-1137-2 海電社	レシビカードブック 大気ルビエミシリーズのお菓子レシピが、カードになり、簡単に作れます。 260mm×220mm 32頁 1260円 978-4-03-427220-6 借成社	洞窟のサバイバル 著 大気ルビエミ A5判 48頁 1260円 978-4-265-81062-8 岩崎書店	朝日新聞出版 B5変型判並製 208頁 1260円 978-4-02-330825-1 朝日新聞出版	ヤマトタケル 著 和月伸宏 A4判変型 36頁 490円 978-4-02-330825-1 朝日新聞出版
--	---	---	--	--	---	---	---	--	---	--	--	--	--	---	---

 ぼくのおひる 鈴木のりたけ 著・絵 256mm×196mm 32頁 1260円 978-4-569-78061-0	 21世紀ごども人物館 歴史上の人物たちを豊饒な写真と図版で解説する、オールカラー百科。新たな調べへ一歩を踏み出す内容！ A4変判型 406頁 4998円 978-4-09-221141-4	 いちばん8ミの 中島さな子 著 265mm×215mm 40頁 1260円 978-4-591-12042-2	 父を語る 柳田国男と南方熊楠 谷川 健一 編 四六判 260頁 1365円 978-4-575-23703-0	 どうしてさるかに 北野勇作 著・鈴木志保 画 四六判 216頁 2310円 978-4-902385-90-8	 獣の奏者 上橋菜穂子 著 四六判 396頁 1575円 978-4-06-216439-9	 きみはなぜ生きているのか？ 中島義道 作・井筒英之 挿絵 四六判 187頁 1260円 978-4-03-814310-6	 ジャレットとバラの谷の魔女 あんにゅのすこ 作・絵 B5変判型 80頁 1260円 978-4-265-82030-6	 夏を拾いに 森浩美 著 A6判 504頁 800円 978-4-575-51351-6	 どうぼうがないた 杉川とひろ 作・ふくたじゅん 絵 250mm×262mm 32頁 1890円 978-4-902385-47-2	 昆虫の迷路 香川元太郎 作・絵 212mm×188mm 112頁 1260円 978-4-8340-2558-3	 ①幽霊屋敷レストラン 松谷みよ子他 文・たかいよしかず 絵 新書判 144頁 630円 978-4-494-00467-6	 シートン動物記 オオカミ王ロボ アーネスト・トシートン 文・絵・今泉吉晴 訳・解説 アメリカに実在したハイロウオオカミ。シートンが「もう一度動物を殺さない」と決意した感動的な物語！ 四六判 176頁 1155円 978-4-494-00090-9		
PHP研究所	小学館	ポプラ社	双葉社	富山県インターナショナル	福音館書店	講談社	偕成社	岩崎書店	双葉社	富山県インターナショナル	福音館書店	PHP研究所	童心社	童心社

● 価格はすべて税込みです。
● 「うちどく」に関するお問い合わせ先：トートン広報室「うちどく」係 TEL.03-3266-9587
● 上記の広告商品は、オンライン書店「e-hon」（<http://www.e-hon.ne.jp>）と全国 4500 軒のブックライナー「本の特惠店」（<http://www.bookliner.co.jp>）加盟店でお申し込みいただけます。
● お近くに書店がない場合は、本のお届け先へ コールセンター TEL.0120-33-7778 でご注文いただけます。

